

---

## 治山治水活動を通じたエコツーリズムによる地域振興

### 飯能市 上名栗地区 獨協大学

---

#### 1 活動目的

私たち大竹ゼミでは「人間と自然との関わり」をテーマに、グリーンツーリズムやエコツーリズムについて学んでいる。本活動の目的は、間伐材の利用を促進し、林野の保全を通じて森林の多面的機能を高め、山地災害の防止に貢献することである。飯能市の木材は江戸時代より「西川材」と呼ばれ、住宅用建材として利用されてきた。しかし、ほかの国産材と同様に利用が減少し、林業従事者が不足したため適切な間伐が行われなくなってしまった。また、現在では倒木や林地残材（間伐されたものの利用されず山林に放棄された樹木）などの問題も全国的に生じている。これらの問題は、土砂災害や大雨による災害を激甚化させている。例えば2019年9月の千葉県に大きな被害をもたらした台風15号では、病気になった杉林が伐採されず放置されていたため、倒れた樹木が架線を切断したことで長期間にわたり停電の被害をもたらすこととなった。このような山林の荒廃により引き起こされる災害を間伐材の活用を活用することで低減し、森林の多面的機能を高めることを目的として活動している。

#### 2 活動地域の現状

飯能市は埼玉県の南西部に位置し、西武池袋線池袋駅から飯能駅まで特急列車で約40分の時間距離である。さらに活動地域である上名栗地区は飯能駅からバスで約1時間である。飯能市は森林が市の面積の75%を占めており、野生動物が多数生息している。そのため野生動物による食害も多く、飯能市鳥獣被害防止計画によると、2017年の飯能市全体における被害額は約3,000万円にのぼる。飯能市ではこれらの野生動物による被害を抑えるため、同計画では猟友会への有害鳥獣捕獲業務委託による駆除や電気柵による対策も行われているが、大きな成果は挙げられていない。また、上名栗地区のような山間地域では、野生動物が居住地域に侵入し農作物の食害が多数発生している。市全体において人口の減少と少子高齢化が進んでいる飯能市の中でも、特に名栗地区は人口の減少が著しく高齢化も進んでいるため個人による害獣対策が難しいというのが現状である。

#### 3 活動内容

第1回の活動として、6月2日に私達は上名栗地区の視察を行った。その日は実際に被害を受けている上名栗地区の畑を3か所案内して頂き、活動に協力して頂く方々への挨拶も行った。



図1 骨組みのパイプを加工する様子



図2 手作業で杭をとがらせていく

第2回の活動は、7月13日・14日の2日間で「NPO法人 名栗カヌー工房」にて柵となる間伐材の加工を行った。間伐材はそのままの状態に埋めて使用すると虫に食べられたり、木材腐朽菌によって腐りやすくなってしまいうため、鎌や鉋を使って木の皮や節を削る作業を行った。また、鋸で切断することができなかった木材の節や、杭として太すぎる木材は、カヌー工房の方にチェーンソーで切断していただいた。

第3回の活動は8月22日・23日の2日間で行った。防獣柵や扉部分の骨組みに使用する金属製パイプをパイプカッターで約70本切断した(図1)。また、前回の活動で丸太から加工した間伐材の先端を鉋で削り、杭を打ち込みやすいように加工した(図2)。間伐材の加工と骨組みが完成した後、実際に柵の取り付けを行った。はじめに設置されていた柵は高さが腰程度のもの、柵自体が曲がっているなど不安定な状態であり防獣柵としては不十分であった。そのため、今回新たに作成した柵は高さを約2mにし、鹿が飛び越えられないことを目標とした。まず、骨組みのパイプと間伐材の杭を同じ場所に打ち込み、結束バンドで固定した(図3)。その次にパイプの周りにネットを張り、風や衝撃で外れないように結束バンドで固定した。最後に入出口となるドアを設置した。第3回の活動で柵を取り付けた畑は川に近く、こぶし大の石などが地表付近に多く埋まっていたため、杭の打ち直しや、石を取り除く必要があり作業が思うようにいかないことがあった。



図3 杭をハンマーで打ち込む様子

第4回の活動は、9月15日・16日に前回の活動を行った上名栗地区付近の住宅の畑で活動を行った(図4)。比較的住宅の多い地域で行ったため、地域の方々と交流する機会があり、そこで私達の活動に興味や関心を持ってくださった地域の方より間伐材を用いた防獣柵の設置の依頼をいただいたため、来年度も継続して活動を行っていきたいと考えている。また、来年度に予定している間伐作業に備えて、鋸や鉋を購入し道具の使い方に関する講習会を2020年2月25日に実施した。



図4 完成後の様子

#### 4 成果

本年度の活動の成果として、間伐材を利用した防獣柵を飯能市上名栗地区にある2件の民家の畑に設置した。この地域は、野生動物の中でもシカやサルによる被害が多い地域である。これらの動物による被害を防ぐためには、約2m以上の高さの柵を設置する必要があった。しかし今回防獣柵を設置した地域は高齢者が多く、個人での柵の設置が困難であるため私たちが設置を行った。1年間の限られた回数での活動ではあったため、設置箇所は2箇所にとどまったが、合計設置面積は427㎡であった。回数を重ねるごとに地域の人たちにも私たちの活動を次第に認知してもらうことができた。

#### 5 課題と今後の活動予定

今後この活動を継続していくための課題として、地域との交流を一層深めていく必要があると感じられた。そのため、今後の活動においては、地域の交流会やお祭りなどのイベントにも参加していきたいと考えている。前述したように私たちの活動地域は、作業地点までの交通の便に恵まれている地域ではないため、交通費に活動費用の多くを割かれることとなっている。こうした問題を解決するためにも、地域の人々の理解や協力を得ることが不可欠である。

令和2年度の活動は、引き続き防獣柵の設置と新たに間伐作業を行う予定である。防獣柵を設置する場所は、名栗地区の中でも有名な花見スポットである。また、間伐予定箇所は、名栗川沿いのスギ林を予定している。